榆木小学校　学校通信
No.３９
なりたい自分になる！
PLUS ULTLA
令和７年１月３１日
文責　余宮

１月がいってしまいます。３学期は時のたつのが早いような気がします。なぜでしょうか。

あいさつについて

３学期が始まって、すでにひと月が経とうとしています。朝から校門に立っていますと、さわやかで元気なあいさつが飛び交います。本当に気持ちがよい朝を迎えられたと、実感できる瞬間です。

あれ？ちょっと暗い顔もみられますね。どうやら、朝から調子が出ていないようです。あ、こちらはいつもよりわくわく感がはじけています。多分、いいことがあったのか、もしくは今日いいことが待っているのだな。

この時点で、実はどちらのお子さんの「おはようございます」のあいさつの声は、まだよく聞こえてきていません。私から遠目で見えているだけ。なのに、なぜかその気持ちまで伝わってきます。このように、態度や表情などの雰囲気が言葉よりも雄弁だと、皆さんも感じられたことがあるのではないでしょうか。ベストセラ―にもなった「人は見た目が９割（竹内一郎. 2020. 新潮新書）」とはなかなか言い得て妙だと思いますね。

メラビアンの法則というものがあるそうです。人間同士のコミュニケーションにおける影響力の割合が、言葉による文字情報が７％、口調などの聴覚情報が 38％、そして表情やジェスチャーなどの資格情報が 55％だというのです。すなわち、文字以外（ノンバーバル）の情報が、コミュニケーションにおいては９割を超える、という研究結果があるとのこと。

メラビアンの法則については、研究の途上で科学的根拠に課題があるとのことですが、なんとなく言葉だけでは伝わりにくいと感じた経験も相まって、割と感覚的に納得できる情報だと、私なんかは思います。

人は、コミュニケーションの道具として「言葉」を発明しました。人間が発明した言葉だからこそ、その使い方には大切なルールがあります。ただ、そのルールは社会的なもの。言い換えると、その場や地方、国などの環境によってルールが様々です。その上、言葉は多義的（「いい」は、「良い」という意味もあれば「遠慮する」「いらない」という意味もあります。誤解のもとになりがちな言葉は、この他にもたくさんありますよね）。だから、言葉のみでのコミュニケーションは、誤解を招くことがあります。SNS で炎上してしまう投稿があるということも、なるほど納得させられます。

そう考えると、ノンバーバルな情報は非常に重要な意味をもつ、と言えそう。SNS でのやり取りに、スタンプという強力な表現が加わったのにも、ある意味うなずけます。あいさつが言葉のやり取りに終わらないコミュニケーションだとするならば、その表情や声の調子などもとても重要だといえるのではないでしょうか。だから、あいさつには言葉以外の工夫も凝らすべきだと、私は思います。その工夫は、人それぞれであっていいと思うのですが、コミュニケーションとしての工夫だとするならば、相手にどう見えるのかは意識した方がよい。自分はしたつもりだとしても、相手にそう受け取られないとするならば、さらなる工夫の余地があります。その小さな工夫を、一人ひとりが心がけ、やわらかい空気が漂い始めた時、榆木小はより一層の素敵な空気感に包まれるのではないかと、私はとても楽しみです。

３学期の生活努力目標は、あいさつです。